

尼崎の森中央緑地整備計画

目 次

1. 背景	1
2. 「地域が育てる森」から「地域を育てる森」への展開	2
3. 森づくりの方向性	4
4. 園地計画の修正	5
5. つかう場としての森の役割の明確化	9
6. 利活用ゾーニング計画	15
7. 利活用内容	16

【参考】

◇資料1 尼崎の森中央緑地基本計画	20
◇資料2 尼崎の森中央緑地植栽計画	21
◇資料3 整備計画の計画変更	22
◇資料4 植物や昆虫など生物多様性を楽しむ利活用案	23
◇資料5 海外の工場等産業遺構の公園化の事例	24

平成27年3月

兵庫県

1. 背景

中央緑地が位置する尼崎臨海部は、古くは茅渚の海、猪名の浦と呼ばれ、白砂青松の美しい海岸が連なっていた。

江戸期には天守を持つ城下町として栄え、臨海部の新田開発により米、綿花、菜種の栽培が盛んであった(図-1)。明治後期以降、新田への工場立地、海岸の埋め立てが進み、城下町から工業都市へと急速に変貌を遂げた。大正期以降に重工業化が進み、昭和30年代以降の高度成長期には、阪神工場地帯の一翼として我が国の高度成長を支えていた。

工業化の波は、美しい海辺の自然環境の喪失や生活や生態系を脅かす公害の発生などの環境問題を深刻化させた(写真-1)。工場による公害は企業、地域の努力により解消される一方、阪神・淡路大震災や工場の郊外や海外への移転など産業構造が変化し、跡地の遊休化が進むなど、地域の活力の低下が見えてきた。

こうした背景を受け、兵庫県及び尼崎市は、尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、平成13年度に「尼崎21世紀の森構想」を、平成16年度には「尼崎の森中央緑地基本計画」を策定し、構想のリーディングプロジェクトとして、巨大な製鉄所などの工場跡に、豊かな森を創生しようと尼崎の森中央緑地を整備することとした。

尼崎の森中央緑地は、100年かけて、ひとりひとりの参画により「地域が育てる森」をつくり、人々が自然の恵みを楽しむ「地域を育てる森」とすることを基本理念とし、森づくりは、21世紀になり地球規模で認識されはじめた人類の存続の基盤であり、地域の独自の多様な文化を支える生物多様性の理念に基づく森づくりを進めることとした。この生物多様性の森づくりとは、「遺伝子の多様性」「種の多様性」「生態系の多様性」の3原則に基づき、世界でもほとんど類のない流域等から種を採取し地域性の苗木を育て、100年かけて多くの恵みをもたらす森を実現する計画とした。

尼崎の森中央緑地の基本計画策定から10年が経過し、延2万人を越える県民の参画を得て、約55,000本の植樹を完了し、「はじまりの森」が既に樹高7.0mの若い森に成長するなど、“ひとりひとりの参画により「地域が育てる森」をつくる”流れが定着しつつある。

平成26年度には、森づくり活動の拠点となるパークセンターが完成し、学校教育と一体化した環境体験学習プログラムを実施し、平成27年度には大芝生広場が完成するなど、自然の恵みを楽しむ場が整いはじめている。そして、森の中核となる港湾緑地の植樹を開始する。

本計画は、現在の状況を踏まえ、今一度基本理念に立ちかえり、100年後の“育てる森”の完成を待つのではなく、森の成長に応じ“人々が自然の恵み”を楽しむよう、森の利活用のイメージと場を設定し、森を育てながら「地域を育てる森」の実現を目指し、整備計画を策定するものである。



図-1 明治31年大日本帝国2万迅速図尼崎
歌川貞秀画「西国名所之内 尼崎大物の湊」



写真-1 昭和40年代の尼崎製鉄所

2. 「地域が育てる森」から「地域を育てる森」への展開

(1) 計画の経緯

尼崎の森中央緑地基本計画は、平成 15 年度に“ひとりひとりの参画により、「地域が育てる森」をつくる。”、“森が成長し、人々が自然の恵みを楽しむ「地域を育てる森」となる。”の基本理念のもと、臨海地域の都市の再生を先導する森を目指し策定した（巻末参考資料 1）。

同植栽計画については、平成 17 年度に尼崎の森中央緑地植栽計画検討会により、生物多様性に配慮した 100 年の森づくりを目標に、阪神地域の郷土種の 300 種 20 万本の苗木を参画と協働により植樹するとともに、園地の施設整備を進めた（巻末参考資料 2）。

平成 23 年度には、土壌汚染物質の問題により、なぎさ整備のための陸域の湾状掘削を取やめ、内陸部を海岸性草原と松林等に修正するとともに、高架下の駐車場計画、パークセンター（管理事務所）の配置を取り決めた。（図-2、巻末参考資料 3）



図-2 計画平面図（H23 年度）

(2) 整備の現況

平成 26 年度に第 2 工区のパークセンター等がオープンし、全体整備計画面積の約半分が開園（図-3）。また、第 3 工区（港湾緑地）についても今年度より本格的な造成を開始し、森づくりがスタートしている。

- ・整備計画面積 約 29.1ha
- ・既開園面積 約 14.7ha

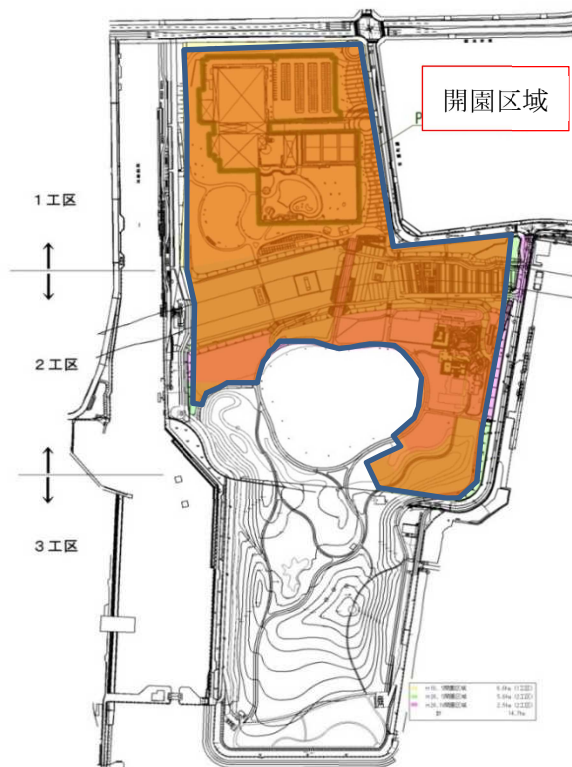


図-3 開園区域図（H27 年 2 月現在）

(3) 地域が育てる森づくりの現況

「地域が育てる森づくり」の取り組みとして進めている苗木の里親植樹会、企業による植樹祭やエリア設定植樹等により、平成25年度末までに、延べ20,000人が森づくりに関わり、計画本数200,000本のうち55,000本の植樹を終えている（写真2～4）。



写真-2 苗木の里親植樹会



写真-3 企業植樹祭



写真-4 企業敷地内での苗木育成

平成26年に様々な活動拠点なるパークセンター（学習棟、作業棟）が完成し、学習棟では、阪神南地域の学校教育と一体化した環境体験学習プログラム等41校の受入れや、森をテーマとするイベントを開催している（写真-5～7）。作業棟は、隣接する苗圃やみなの花野の育成作業や、環境体験学習時の実生の鉢上げなどの体験場となっている（写真-8,9）。



写真-5 パークセンター学習棟



写真-6 小学4年生環境体験学習



写真-7 ニキニキフェスタ 森にうたえば



写真-8 パークセンター作業棟



写真-9 作業棟内での環境体験学習

(4) 地域を育てる森へ

基本計画策定から10年が経過し、基本理念である“ひとりひとりの参画により「地域が育てる森」をつくる”という目標は、企業や住民の植樹など様々な活動がはじまり、ほぼ定着しつつある。

また、パークセンターの供用を機に、つくりながら運営するという状況が実現するとともに、尼崎市と連携し、学校教育と一体化した環境体験学習プログラムを実施し、市内の8割の小学校が訪れるなど、次の目標である“人々が自然の恵みを楽しむ「地域を育てる森」への舞台が整いはじめている。これからは、この「地域を育てる森」の実現に向け、公園の運営に関わる人々や利用者とともに森づくりを進めることを基本とする。

3. 森づくりの方向性

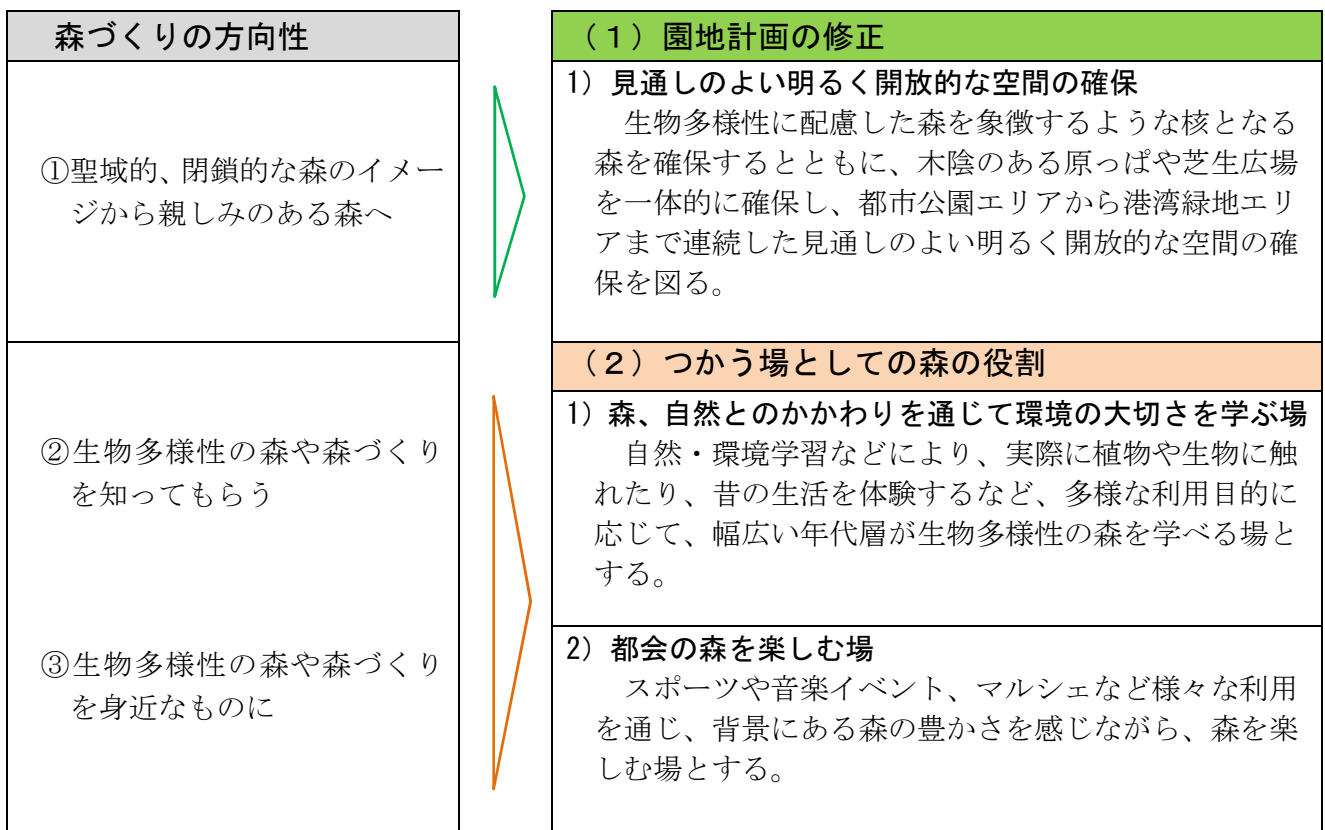
尼崎の森中央緑地では、100年後の成熟した森のみを想定し、森のつかい方を考えるのではなく、植樹から成熟までの森の成長過程に応じて、持続的に森の恵みを享受し地域を育てる森づくりを進めていく必要がある。

“人々が自然の恵みを享受する「地域を育てる森」”を実現するため、森づくりの方向性を定め、ハード及びソフトの両面から具体的方策を検討する。

森づくりの方向性は、人々（地域）が森の恵みをさらに享受することを目的に、まず森と人との関わりを深めることを目指す。

そのため、これまで進めてきた生物多様性の森づくりをさらに身近に感じ、知ってもらうための方策を検討する。

具体策として、①ハード面（園地計画）は、気軽に森の中に入り、森に親しみを感じることが出来るよう景観的に親しみのある明るい森づくりを目指し、②ソフト面（利用計画）は、生物多様性の森や森づくりを知ってもらうため、巨大な製鉄所などの工場跡が県民と企業など多くの人々の参画と協働により100年かけて森を創生する我が国でも例のない壮大なプロジェクトであることを伝えるとともに、生物多様性が人が生きるうえで、大切な基盤であることを知り、地域の四季の美しい風景や独自の文化の多様性をも支えていることを学ぶ森とする。さらに気軽に森を利用し、体感的に自然の恵みを感じてもらおう利活用策の展開を目指す。



4. 園地計画の修正

(1) 園地計画修正方針

園地整備計画については、3. 森の方向性での検討による『見通しのよい明るく開放的な空間の確保』の観点から以下の方針のもと園地計画の修正を行う。(図-4)

【方針】

- (1) 大芝生広場と木陰のある原っぱを一体化させ、中央と海岸部を結ぶメイン動線として人の流れを確保する。
- (2) 大芝生広場から南部の照葉樹林への眺望（視線）は、周辺樹林と疎林に遠近法を用いて、奥行きと立体感のある景観を演出する。
- (3) 照葉樹林は、森の無い尼崎の象徴的な奥山として育成し、頂上には成長後の樹木高を越える展望塔を設ける。
- (4) 大芝生広場は、多目的利用を図るため、当初計画の疎林型草原から、オープン・フラット型芝生広場（約3.0ha）に拡張し、野外音楽会（2万人収容可能）やスポーツイベント等の利用を可能にする。



図-4 園地計画修正図

(2) 植栽計画修正方針

整備計画の変更に伴い、植栽計画及び目標植生計画の変更を行う。植栽計画等については、緑化技術検討会により検討 (H27. 2. 19)。

【方針】

- ・里山体験と循環モデル、また草原環境から森林環境まで多様性の高い生態系を持続できる低林エリアの導入を行う。
- ・「魅せる森づくり」として、カシ等の高木層構成種を優先的に植樹するのではなく、ツツジ、クチナシなど花や実を楽しめる低木を先行植樹し、高木、亜高木を追加植樹する森づくりを実施する。
- ・目標植生は、平成18年度策定の尼崎の森中央緑地植栽計画を基本的に踏襲する。

◇魅せる森づくりのイメージ



高木先行植樹による
照葉樹の林相貧弱化の例



低木先行植樹による
林相形成イメージ



目標となる林相豊かな森
(写真は照葉原生林 九州)

表-1 目標植生面積表

記号	目標植生	面積 ha	摘要
A	コジイカメナチ林	1.41	・(仮) あまもり山と名付け、太古の森として公園のシンボルとする。 ・山頂には展望施設を設置し、森林構造の観察や大阪湾への眺望点とする。
B	ウバメガシトバラ林	0.97	・多様性の低いウバメガシ林は無理のない範囲で他の目標植生に置き換える。 ・クヌギコナラ低林と接したウバメガシ林は低林管理とし、C1と共に里山体験活動の場とする。
C1	クヌギコナラ林 (低林)	0.70	・エリア内に茅葺き民家や炭窯の設置が予定されていることから、中長期にわたる薪炭材の供給を目的とした低林として管理することにより、里山体験活動及び里山文化・景観継承の中心的な場所とする。 ・面積は1ha程度、1区画を1000㎡程度として毎年皆伐し10年で一巡させる。
C2	コナラアベマキ林	1.91	・C1に連続するが、茅葺き民家、炭焼き窯の活動拠点から離れる本エリアについては、低林と対比させた高林エリアとし、樹林観察等の環境学習等に活用する。
D	エノキムクナギ林	1.03	・エノキ林は、野鳥、チョウ類など動物種の誘致が期待されるので、多様性の高い空間として環境学習等に活用する。
E	クマツツク	0.77	・クマツツクは海、運河に面した、緑地の最外周部に導入する。
F1	大芝生広場	3.23	・コンサートやイベント等のレクリエーション主体の芝生広場とする。
F2	木陰の芝原	1.00	・休憩利用、景観に配慮し、低木及野草を主体とする疎林の明るい広場とする。
F3	海への路	1.04	・海への見通しを確保しつつ、林縁部を活かした多様な低木や野草等を導入し、多くの昆虫等を誘致する多様性の高い空間とする。
F4	海辺の広場	1.04	・芝生を中心に、カヤヤスササ及び海浜性の野草の混じる広場とする。
G	施設外構の庭	0.29	・茅葺き民家、スイツウスの外構空間は、在来の果樹等の導入も検討し、各々の建築物や時代背景に合った演出を行い、生活空間を学び感じることの出来る空間とする。

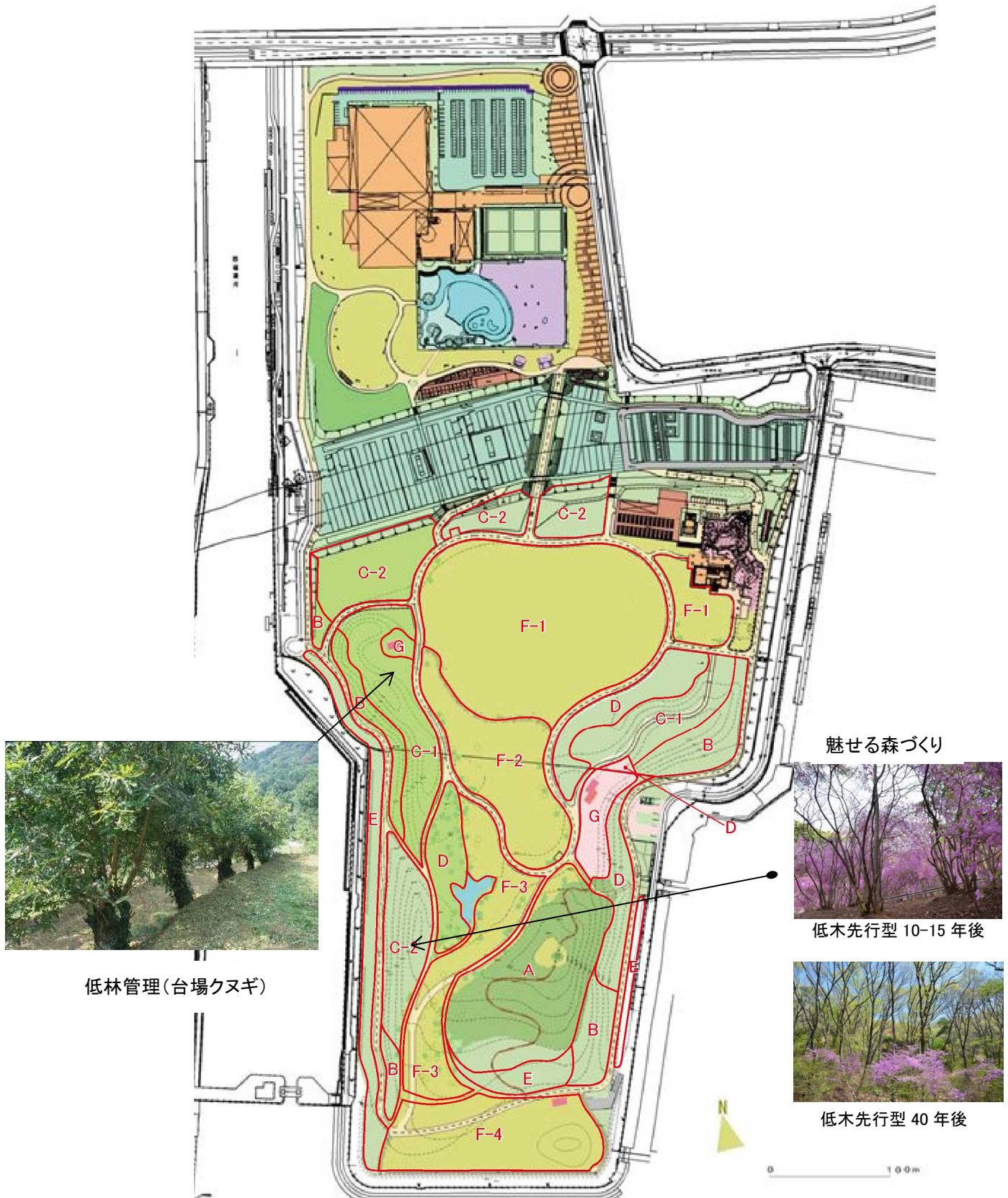


図-5 目標植生計画修正図

5. つかう場としての森の役割の明確化

つかう場としての森の役割は、以下のとおりとする。

- (1) 森、自然とのかかわりを通じて環境の大切さを学ぶ。
- (2) 都会の中の森を楽しむ。

さらに森のイメージとしては次を掲げ、森の役割の明確化の検討を行う。

森のイメージ

将来守（森）人※₂が集う「ひょうご集いの森（仮称）」

※₂ 森の大切さを知り、森を楽しむ人

(1) 森、自然とのかかわりを通じて環境の大切さを学ぶ

現在、小学生を中心に実施している森と人との関わりについて学び・体験ができる環境学習プログラムや、森づくりを通じて自然環境の大切さを理解する企業等のCSR活動等を踏まえ、以下の方針を設定し、公園利用者が生物多様性の森とのかかわりを通じて森の大切さを学ぶことができるようにする。

a) 森と人との共生した日本の独特の歴史・文化の学びと継承

茅葺の古民家などを拠点として活用し、昔の里山の暮らしや生業について体験する。また、森と人との共生に必要な知恵や知識、技術・ノウハウを学び習得することで、次世代に里山の生態・歴史・文化を継承する。

<事例>

*紀泉わいわい村(茅葺屋根の四阿)(大阪府)

里山の暮らしや自然体験を通じて、環境問題への関心を深めることを目的に「里山の自然学校」として運営。自然体験や里山の生活体験などの環境教育プログラムを提供。(人が下草刈りや間伐を行い、手を入れることにより、豊かな山が育ち、人はそこに住む動植物と共にその恩恵を受けます。里山とは日本固有のものであり、その原風景はどこか懐かしく心とみまます。そこでの様々な体験は、まさに環境教育の原点となります。HP抜粋)



自然の中での「里山生活体験」の効力



b) 五感を使った遊びと学びによる自然・環境学習の展開

森における動植物との接し方、季節の移ろいなどの体験を通じて、子どもの心身の健康や感性、想像力を育めるよう、幼稚園、学校や子育て世代の親子を対象とした自然・環境学習を展開する。

<事例>

***森の幼稚園(ドイツ語: Waldkindergarten)【ドイツ】**

自然の中での幼児教育を行う取り組み。森林の中で子どもが感性を研ぎ澄ませ、自然との関わりのなかでヒューマニズムとエコロジーの意識を育てる。(ECI ネット HP 他より)



***日本での森の幼稚園の取り組み**

日本では、森のようちえん全国ネットワーク団体会員等により、全国各地で自然体験活動を基軸にした子育てや保育、幼児教育が実践されている。自然環境の中での幼児教育や保育を、日本では一般的に森のようちえんと呼びそのスタイルは様々である。共通しているのは自然環境の中での幼児教育と保育で、自然の中で子供の持っている感覚や感性を引き出すような関わり方を多くの団体が実践している。阪神間では甲山森林公園等をフィールドとして実践されている。(森のようちえん全国ネットワーク HP 参照)

***メルボルン王立植物園内の子どもの庭【オーストラリア】**

王立植物園は1846年の開園で、160年余の歴史のある植物園。現在は、40ヘクタールの広さの園内に、世界各地から集めた12,000種51,000本あまりの、様々な植物が植えられている。「こどもの庭(チルドレンズ・ガーデン)」には、遺跡庭園、湿地帯、竹の森、渓谷(山岳のセット)、工場トンネル、幼児用の菜園(キッチンガーデン)、リル(庭を通る穏やかな水路:源流のセット)などで子どもたちの年齢や身体能力に応じた自然体験ができ、五感を使った学びと遊びによる環境学習を実践している。(メルボルン王立植物園 HP 参照)



中瀬先生写真提供

c) 各種活動団体と連携した「森のお仕事」の場の実施

森にかかわる仕事『育苗、植樹、間伐、草刈など森づくり』や『自然素材を使った工作や料理や工作』『森のガイド』『森の調査・研究』等について各種活動団体から講師を招き、子どもたちが気に入った森の仕事に挑戦できるようにする。



<事例>

*「Out of KidZania 森の町内会 林業体験」【岡山県西粟倉村 2010年】

林業の仕事やそこで働く人たちのことを知り、自分だけの「発見」をすることを目的に、西粟倉村（岡山県）の山間にある自然の豊かな小さな村において森林見学、仕事場見学・インタビュー、木工体験、そして、新聞作りワークショップと、盛りだくさんのプログラムを実施。



※ 甲子園キッズニア【西宮市】

キッズニアは、子ども達が好きな仕事にチャレンジできるこどもが主役の街である。また、お給料としてもらったキッズ（専用通貨）を買い物や習い事などに使って楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる。

(2) 都会の中の森を楽しむ

現在、本緑地での利活用実績の多いスポーツやイベント等の利用を中心に以下の方針により、都会の中の森として多様な利用で楽しめるようにする。

a) 多様なスポーツ利用の促進

森や広場、また、森の回廊を活用し、サイクリングやジョギングなど多様なスポーツを通じて健康づくりに貢献する場とする。

<事例>

*森のピクニック(尼崎の森中央緑地)(尼崎市)

平成 26 年 10 月に森のピクニックと称し、尼崎の森 de ヨガ、21 世紀尼崎の森リレーマラソン、タンデム自転車試乗会など中央緑地の芝生広場等を使ったイベントを実施。



b) 開放的な森での創作活動の実施

木陰のある明るい広場や奥山の森の中から海辺までを楽しんで歩いてもらえるよう、アートやクラフトなど森を活かした文化活動を展開し、里山の環境及び景観をより魅力的な空間として利用できるようにする。

<事例>

*アートウォーク in 淡路島公園 2013(淡路市)

自然環境豊かな公園の景観とマッチした魅力ある空間を創出し、楽しみながら公園を歩くことを目的とした環境アートプログラム。

同施設のオアシス館から花の谷の遊歩道約 300mの間に一般公募で選ばれた作品や淡路景観園芸学校の関係者や公園のボランティアが製作した作品を展示。同公園内で集めた素材や景観を活かした作品を展示している。



c) 大芝生広場のイベント活用

臨海部に立地する大規模でフラットな芝生広場の特性を活かし、コンサート、マルシェ、など、周辺地域や農村地域と連携した様々なイベント利用が行えるようにする。

<事例>

***高知オーガニックマーケット(高知県立池公園)(高知市)**

高知県の有機農業者が、新鮮で安全な食材を求める消費者に、直接農産物を販売する場として、全国初のオーガニックマーケット。野菜の種の交換なども行い、在来種を守る運動にもつなげて行くことなども実施している。また、作った人と買う人がこの場で「売りつつ学び、買いつつ学ぶ」ことによって、有機の視点から自分の生活や社会を考えるいわば有機の文化を醸し出して行く場にもなっていることも期待している。

(高知オーガニックマーケット 出店者組合設立趣旨書より抜粋)



***ロハスミーツ明石(明石公園)(明石市)**

さまざまな価値観の住民が、しっかりと未来を見据えてモノゴトをとらえなおし、住民自身の手で住みよいまち、住みたいまちづくりを目指して様々な方々と出店オーナーさんと「ミーツ,Meets」出会う場。



***夏フェス:FREEDOM AOZORA(国営明石海峡公園淡路地区)(淡路市)**

毎年8月に「国営明石海峡公園淡路地区」で開催される大規模な野外音楽フェスティバル



d) 森のブランド化

最先端の森づくりとしてより強く情報発信していくために、地域で取り組んでいるスイーツやバイオマスの取り組みを推進する。

<事例>

*尼崎スイーツ(尼崎市)

尼崎市は、日本を代表する洋菓子メーカーの創業の地であり、有名店のパティシエを数多く輩出するなど、「スイーツの街」としての顔を持っている。スイーツを活かしたイベント等の取り組みを実施。



6. 利活用ゾーニング計画

「つかう場としての森の役割」を踏まえたゾーニングを計画する。(図-8)

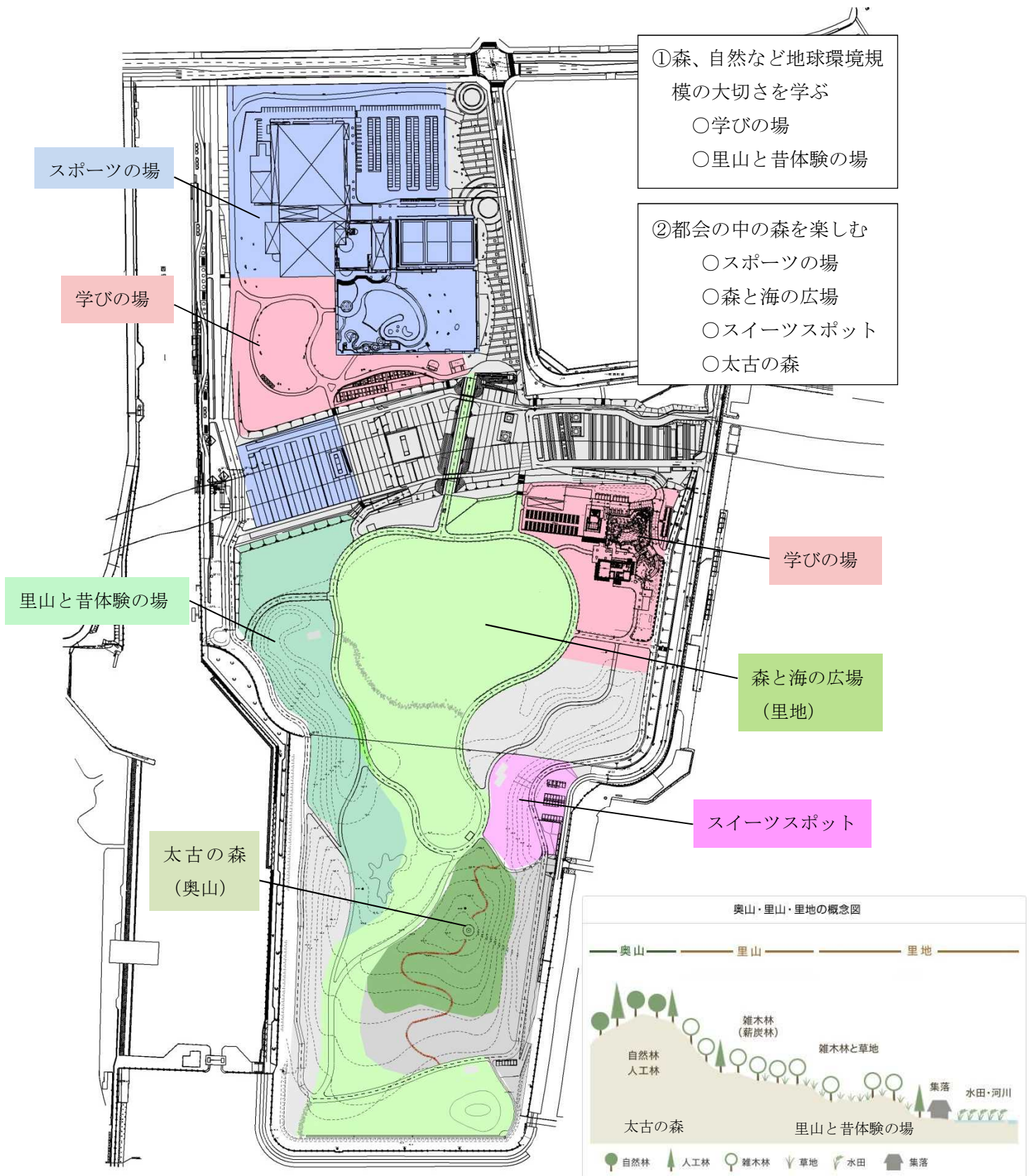


図-7 ゾーニング図

7. 利活用内容

ゾーンごとの利活用内容について以下に示す。

1) 環境の再生や森、自然など地球環境規模の大切さを学ぶ

(1) 学びの場

<利活用内容>

パークセンターを中心に以下の利活用を実施

- ・小学生、Kids、一般を対象とする環境学習
- ・生物多様性の森づくりの取り組みをパネル展示
- ・尼崎臨海地域の歴史や環境再生の取組をパネル展示
- ・森全体の情報センター、森構想の市民活動拠点づくり
- ・再生可能エネルギー体験
(太陽光、屋上緑化、薪ストーブ=バイオマス)



<施設>

- ・整備済: **パークセンター**、**みなの花野**、**苗圃**、**はじまりの森**
- ・計画: **キッチンガーデン**、**第2学習棟**

<その他(企業連携)>

構想区域内の企業と連携し、環境、ものづくりをテーマに、学習プログラムを実施。

将来、中央緑地がコアとなり、エリアとして、「森とものづくりの Ecomuseum」を目指す。



(2) 里山と昔体験の場

<利活用内容>

- ・日本独自の森と人との共生の歴史を子どもに継承する場
- ・周辺の里山林、原っぱと一体的に昔話を実践する柴刈、かまどでの炊事、囲炉裏の利用、その季節に応じ、草木染、炭焼き、和紙すきを体験

<施設>

- ・昔の茅葺き民家(旧尼崎藩内の民家 柴置 かまど 囲炉裏)
- ・炭焼窯、カブトムシ小屋、椎茸
- ・冒険の森



2) 都会の中の森を楽しむ

(1) スポーツの場

<利活用内容>

- ・パーク&サイクルライド拠点化(レンタサイクル)
- ・イベント 市制100年記念ハーフマラソンの開催
東京オリンピック合宿誘致

<施設>

- ・尼崎スポーツの森、多目的広場
- ・森の回廊(サイクリング・ジョギングコース:距離表示標設置)



(2) 森と海の広場

<主要施設及び利活用内容>

大芝生広場

- ・県立都市公園最大級のオープン・フラットな芝生広場で、野外音楽会、スポーツ、野外マルシェ等様々な利用が可能。

イベント例

- ・Music : 野外音楽会
- ・アート : 学生ビエンナーレ、ファッションショー
- ・マルシェ: 森ののみの市、フリーマーケット
農村部と連携した地産地消市



木陰の芝原

- ・大芝生広場と一体化した木陰のある明るい広場でのレクリエーション
ピクニックなど



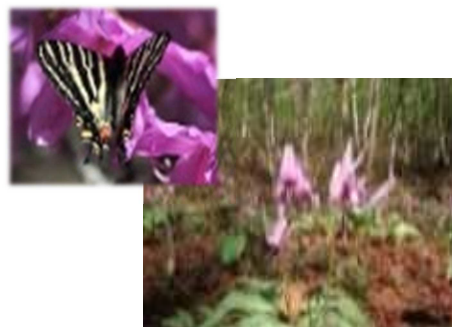
花の路

- ・尼崎スポーツの森との連絡道をガーデンロードとして、コンテストを開催



海への路

- ・大芝生広場と海辺の広場を結ぶ草はらと疎林の路
- ・春の花、秋の七草等を体感、ギフチョウ等蝶の舞う路



海辺の芝生広場

- ・チガヤ及び海浜植物等による草原
(尼崎の海岸の特産品だった尼いも栽培も検討)

森の講堂

- ・環境学習やイベント、休憩の場として四阿を設置

(3) スイーツスポット

<利活用内容>

- ・スイーツのまち尼崎をPR。地元とタイアップし、出向いてでも欲しいスイーツを考案、森のカフェを併設し、売り上げの一部をレインフォレストアイランスなどの世界の環境保全と尼崎の森づくりに寄付

<施設>

- ・スイーツハウス（モダンハウス・歴史的西洋館〔運営は民間〕）
- ・スイーツハウス駐車スペース（旧税関跡に専用駐車場整備）



(4) 太古の森

<利活用内容>

- ・尼崎唯一の奥山として、シイの森を再生
- ・尼崎市南部最高峰(標高 13m)
- ・神宮の森のように森のパワースポットとして位置づけ

<施設>

- ・(仮)あまもり山
- ・展望台(樹木が成長しても海を望める展望塔)



尼崎の森中央緑地計画平面図

